

市長の伊賀じまん

ー 音のある風景 ー



私たちの暮らしには、さまざまな音が存在します。それは、普段の生活の中で聞こえてくるものもあれば、今ではもう耳にすることができず、記憶の中だけに残っているものもあります。

記憶からは、目に浮かぶ風景とともに、周囲の音や人々の声などが思い出され、そんな「音の記憶」というものにしばしば思いをはせることがあります。

私が子どもの頃は、今よりもっとのどかで、人々の暮らしが見える時代でした。朝起きると、花売りの人



▲自宅で組紐作りをする女性

が「花いらかな〜。」とリヤカーをひいてやってきたり、夕方にはお豆腐屋さんが鐘を「チリンチリン」と鳴らしながらやってきて、隣の家からは夕食の支度をする音が聞こえていました。

また、冬になると子どもは「マッチ1本火事のもと」「火の用心」などと唱えながら、拍子木を「カチンカチン」と叩いてまちを歩き

▶まちなかでリヤカーをひきながら物売る様子
(樹林舎『伊賀秘蔵写真帖』より転載、撮影＝松田昇さん)



回ったものです。

そのほかにも、学校の帰り道に通りがかった家の中から聞こえてきた、高台で組紐を打つ「トントントン」という音も懐かしく思います。

このような音の記憶には、伊賀の文化がよく表れています。これらの音は、当時は当たり前だったものばかりですが、今ではなかなか耳にすることができないだけに大変貴重なものであったと改めて感じています。

また、人々の言葉を音としてとらえると、全国的に言葉が標準化している中、伊賀では今も変わらず「京ことば」の流れである優しく柔らかい「伊賀ことば」が使われています。そんな伊賀ならではの言葉をこれからも大切にすることで、伊賀のすばらしさを感じられる音のある風景を残していくことができるのではないのでしょうか。

このように、音の記憶をたどり、昔を思い出すと、改めて私たちのアイデンティティ（個性）を知ることにもなります。伊賀らしい音のある風景は、これからのおもてなしにも大切なものだと思います。

(伊賀市長 岡本 栄)

防災ねっと

子どものためにできること

小さな子どもがいる家庭では、一般的な防災対策に加えて少しの備えをすることで、安心して暮らすことができます。今回は、そのポイントを紹介します。

◆身のまわりの安全チェックをする

ベビーベッドの周囲や、子どもがいつも遊んでいるリビングなどは整理整頓し、安全な空間をつくりましょう。物を積み上げたり、家電などの重いものを高いところに置くのは危険です。また、ガラスが飛び散らないようにフィルムを貼ったり、戸棚や引き出しが飛び出ないように固定することも大切です。

◆食料などの必需品を用意する

「わが家のオリジナル災害用品セット」を用意することが、安心につながります。

(例) ※子ども用

- ミルク (小分けのものが便利)
- 調乳用の水 (軟水かベビー用飲料水)
- 哺乳瓶 (使い捨てが便利)
- レトルトの離乳食・おやつ
- アレルギー対応品
- 着替え (夏でも長袖・長ズボンを用意する。)

- 紙オムツ・おしりふき・ウェットティッシュ

- ごみ用ビニール袋
- おもちゃ・絵本

- タオル・バスタオル (圧縮しておくとう便利)

- 薬・処方せん
- 母子健康手帳や健康保険証のコピー

※ベビーカーなどでの避難は危険ですので、おんぶひもやリュックサックを用意しておきましょう。

◆家族で防災会議をする

災害時に家族が一緒にいるとは限りません。さまざまなことを想定して、集合場所や連絡方法などを話し合っておきましょう。

※災害時は、携帯電話が使えないこともあります。「災害用伝言ダイヤル」の使い方のメモや、連絡先のメモを用意することも大切です。

◎普段から子どものためにできることは、「もしも」に備えておくことです。皆さんもできることから少しずつ始めましょう。

【問い合わせ】

総合危機管理課 ☎ 22-9640 FAX 24-0444



介護相談員だより



施設での^{みと}看取り

介護相談員主な活動は、毎月介護施設を訪問し、利用者の声を聞くことです。

お話を伺う中で、施設利用者にとって施設は「終の^{すみか}住処」になることが多く、施設で最期を迎えることに對する不安の声を聞くことがあります。

看取りを行っている施設にお話を伺うと、利用者が亡くなるとほかの利用者にも知らせて、みんなで手を合わせて見送ったり、慰霊を行ったりしているとのことでした。

このような対応によって、自分も大事にしてもらえろという安心感を抱き、施設で最期を迎えたいと考える利用者も多いとのことでした。

私たち相談員も、より多くの施設でこうした取り組みが行われれば、利用者の安心につながるのではないかと考えています。これからも利用者やご家族と施設の橋渡しとなるよう介護相談員活動を行っていきます。

【問い合わせ】

介護高齢福祉課 ☎ 26-3939 FAX 26-3950

伊賀線だより



「木育^{もくいく}トレイン」運行開始！

忍者列車のさらなる魅力向上のため、緑色の忍者列車の内装に三重県産の木材をふんだんに使用した「木育トレイン」の運行を開始しました。

「木育」とは、木への親しみや木の文化への理解を深め、木材の良さや利用の意義を学ぶ教育活動です。市ではこれまで、「みえ森と緑の県民税市町交付金」を活用した事業に取り組んできました。「木育トレイン」も、この交付金と、同事業を応援いただいた皆さんからの寄付金により、もっと多くの人に三重県産の木材を身近に感じていただくために実現しました。

列車内にはスギやヒノキなどの木材が使われており、本物の木の香りが漂う、ぬくもりのある空間になっています。伊賀らしく手裏剣型のつり革も登場しました。

ぜひ、装いを新たにした緑色の忍者列車に乗って、木のぬくもりに触れてみてください。

【問い合わせ】

交通政策課 ☎ 22-9663 FAX 22-9852

伊賀鉄道(株)総務企画課 ☎ 21-0863

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

女性の活躍する社会をめざして —青山支所住民福祉課—

人権研修でよく出る話を紹介します。

「父親と息子がドライブをしていて交通事故にあり、大けがをした2人は別々の病院に運ばれました。すると、息子が運ばれた病院の外科医が『これはわたしの息子です』と言うのです」。

「どういうことだろう、父親が2人いる？」と思った人はいませんか。さまざまな答えが考えられますが、「外科医が母親だった」という可能性があります。このように、外科医＝男性だと思い込んでしまうなど、私たちは無意識のうちに、職業などを「これは女性向きか男性向きか」と考え判断していることがあります。

昨年4月には「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）が施行され、職場での運用や意識改革が求められています。女性1人ひとりの持つ個性や能力を認め、女性が活躍できる場を充実させ、指導的な立場にいる「女

性リーダー」を増やしていこうというものです。私も女性として、この取り組みに期待しています。

しかし、結婚や出産、育児、介護などが原因で、仕事を離れざるを得ない女性も多く、リーダーになることに不安をもっている人もいます。

でも、ある日「リーダーをやってみませんか」と声がかかるかもしれません。そのときはすぐに断らずに、「まずはやってみよう！」と考えてみてほしいと思います。

女性ならではの視点や感性で物事を発信し、リーダーシップを発揮することで、組織の中で新たな気付きや仕組みを作り上げていくことができるはずで、今後ますますの女性の活躍に期待をすると共に、自分も頑張りたいと思います。

女性がいきいきと自分らしく生きていける状況が整ってきたとき、初めて社会の中で、真に女性の活躍が推進されていくのだと思います。

■ご意見などは人権政策・男女共同参画課 ☎ 47-1286 FAX 47-1288 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ